

2005年(平成17年)1月25日(火曜日)

# KIDOMO 出会う

「一ホンで発見」

中国

握った拳を突き出したかと思つと、突然腰を落として身構える。次の瞬間、自分の頭の高さを越えるほどに足をけり上げる。鋭いまなざしときびきびした動きで、次々



## カンフーで技も体力もアップ

と技を繰り出します。

東京・目黒区にある中目黒スクエアを訪れると、紫丹太極研究会の子どもたちが、カンフー

(中国武術)の練習に励んでいました。

会員は四歳から小学校四年生まで二十人ほど。柔軟性や体力をつける

基本功を身につけ、様々な種類があるカンフーの中から跳躍やけり技を中心とした査拳などを学んでいきます。

小学三年生の玉川愛弓さん(9)と神田有寿さん(9)は「体も柔らかくなつたし、男の子とけんかしても負けなくなった」

と笑います。映画やゲームなどで目にする機会も多いカンフーですが、その歴史は数千年も前にさかのぼるそうです。よく聞く太極拳や酔拳のほか、動物の動きをまねる猿拳など二百以上あると言われま

社団法人日本武術太極拳連盟(東京)によると、日本では、四十年ほど前から健康法の一つとして太極拳が盛んになり、現在、愛好者は約百万人もいます。

同研究会の閻洪亮さんは「中国武術は、技を習うだけではありません。礼儀や精神力、俊敏性、体力も身につきますよ」と話しています。(圭)